

平成28年度 夢の樹みどり 事業実績報告書

1 総括

平成18年に障害者自立支援法が施行され、施設サービス体系は大きく変更された。当時知的障害者小規模通所授産施設であった小平みどり作業所は平成20年に同じ法人内のあかしあ工房と統合する形で就労継続支援B型事業所として新体系へ移行し、その後22年に再び事業を分割する形で夢の樹みどりは開設された。もともと生活支援をニーズの中心とする利用者が多く通所している事業所であり、新体系への移行先として生活介護という選択肢もあったが、医療スタッフの配置など設置基準のハードルが高かったことから、最も移行が容易であった就労継続支援B型を選択することになった。しかし、就労継続支援B型は工賃向上などの就労支援をその事業の中心的な目的としており、夢の樹みどりの一部の利用者ニーズと事業の趣旨にもともとずれがあったといえる。新制度が軌道に乗ってきた27年度には、このずれは報酬単価への反映という形で事業経営にも影響を及ぼすようになってきており、このことは、当事業所のみでの状況ではなく、小平第二みどり作業所においても同様であった。個々の利用者の状況に合わせた支援を行うためには、両事業所の一部利用者の生活介護事業への移行が必要であると考え、28年度は夢の樹みどりの事業種別の生活介護への変更と小平第二みどり作業所、ワークセンター夢の樹と合わせて、利用者の所属の再編が重点課題となった。

この課題の達成のためには利用者及び小平市の合意、また生活介護に必要な建物の確保などが重要な課題となるが、事業の趣旨を丁寧に説明し、関係各位の合意を得た他、土地購入建物建設により目標であった年度内の実施を達成できた。

その一方で、事業実施状況については大変厳しい一年となった。職員採用が進まない上に年度途中の退職者が3名と定着率も上がらない状況で、慢性的な人手不足の状態であった。職員個々のスキルアップによる相談支援の充実と工賃向上を重点課題として取組んできたが、事業再編に時間を費やさなければならない状況に加えて、前述のような職員不足があり、年間を通して、活動の現状維持が中心的な課題とならざるを得ない状況となった。この点については、これまでの利用者一人ひとりの支援ノウハウの蓄積やルーティン化された活動プログラムで日常の利用者支援については安定して実施できたが、一方で業務が形骸化し、職員間の情報共有、伝達など不十分な点も多く、チーム支援を行うにあたっての管理方法や事業実施状況に対する自己点検の不足など反省すべき点は多いと考えている。

2 事業概要

1) 施設名	夢の樹みどり		
2) 事業種別	就労継続支援B型		
3) 所在地	東京都小平市大沼町2-1-3		
4) 運営主体	社会福祉法人 未来		
5) 利用定員	40名		
6) 利用現員	50名（平成29年3月31日現在）		
7) 法人認可年月日	平成14年12月11日		
8) 事業開始年月日	平成22年4月1日		
9) 職員	17名（平成29年3月31日現在）		
	管理者	1名	
	サービス管理責任者	1名	（常勤換算1.0）
	職業指導員	3名	（常勤換算3.0）
	生活支援員	11名	（常勤換算7.7）
	目標工賃達成指導員	1名	（常勤換算1.0）

- 3 基本理念 一人ひとりの自己実現の支援。
互いの尊厳の尊重と信頼関係の構築。
安心と希望の持てる生活。

4 基本方針

1) 就労支援

(1) 基本方針

- ① 利用者個々の特性にあった作業の保障
- ② 生き生きと働ける職場
- ③ 職業指導の充実
- ④ 賃金の保障（工賃向上）
- ⑤ 就労移行支援との連携

2) 生活支援

(1) 基本方針

- ① 日中活動の保障
- ② 豊かな生活の支援
- ③ 利用者一人ひとりの主体的な生活の支援
- ④ 個別支援計画に基づいた計画的な支援
- ⑤ 利用者への相談支援
- ⑥ 安心できる将来への支援

5 実施事業（活動内容）

1) 就労支援事業

- ① 事務封筒作成
- ② 焼き鳥串刺し
- ③ 空き缶つぶし
- ④ ダイレクトメール封入・封緘
- ⑤ 紙袋の底板入れ
- ⑥ キャップの選別
- ⑦ その他受注作業
- ⑧ 清掃
- ⑨ 緑化推進事業
- ⑩ 資源回収

2) 生活支援事業

- ① レクリエーション（月1回実施）
- ② 音楽教室（月2回実施）
- ③ 旅行（年1回実施）
- ④ 生活支援プログラム（週3日実施）
- ⑤ 夕方生活支援事業（週3日実施）

3) 行事

- 4月 新社会人を祝う会・永年勤続表彰式
- 5月 運動会
- 6月 多摩六都科学館

- 7月 ボーリング大会
- 8月 川遊び・みんなの音楽会
- 9月 井の頭自然文化園
- 10月 旅行
- 11月 京王レールランド・多摩動物公園
- 12月 忘年会
- 1月 新成人を祝う会
- 2月 ブリヂストンTODAY
- 3月 スポーツ大会

6 日 課

開所・送迎	8:30～9:00
朝礼	9:00～9:20
準備	9:20～9:40
作業	9:40～10:40
休憩	10:40～10:50
作業	10:50～11:50
休憩	11:50～13:00
昼礼	13:00～13:10
作業	13:10～14:10
休憩	14:10～14:20
作業	14:20～15:20
実績票記入	15:20～15:30
終礼・お茶	15:30～15:40
送迎・清掃	15:40～16:30
作業点検・記録等	16:30～17:00
職員打ち合わせ	17:00～17:30

7 重点課題・目標に対する評価

- 1) 相談支援の充実と関係機関とのネットワーク強化による総合支援体制の構築
 - ・ケース担当制による個別面談を実施し、利用者一人ひとりのニーズを把握していく。

【成果と課題】

全利用者に担当職員2～3名を決め、この担当職員がそれぞれ利用者10名程度のケース記録の作成、実績記録の記入、個別支援計画の作成をおこなった。また、個別面談についてはこの職員の中から1名が施設長とともに出席し、直に利用者やその家族からの話を聞く機会を設けた。面談結果についてはミーティングにより全体での共有を図ったが、担当者が主体的に支援の方向性を提示するまでに至らず、利用者に関する事務の分担にとどまったといえる。日常の活動においてケース担当者が中心となって支援を行うという形になっていないうえ、支援技術についても全般的に育成が進んでいないことから、ケース担当制の利点を活かした効率的且つ丁寧な支援の実施には至っていない。ケース担当制そのものに対する考察が不十分であったといえる。個々の利用者のニーズ把握については面談により一定の成果があったが、把握したニーズを整理し具体的に支援に活用する取組は不十分であった。

- ・利用者と結びつきのある関係機関と連携を図り、情報共有や情報交換を密に行なうなどネットワークの強化に取り組んでいく。

【成果と課題】

個別面談等で数件あった移動支援事業所や短期入所事業所の利用について、事業所の紹介や、利用開始の仲介を行った。新規の利用をした利用者については、施設長の指示の元、ケース担当者が事業所に連絡をとり、利用時の本人の様子や体調面の確認を行なうなど、アフターフォローも実施した。これまで施設長が主に行なってきたことを職員も分担することで、数名の職員に対して利用者の生活全般に対する意識付けを行った。ただし、経験年数の浅い職員が多く、事業所間の職員同士が顔の見える関係性を作り、利用者の支援に有効に作用するようになるまでには至っていない。全般的に利用者の生活範囲が広がりを見せる傾向にあり、様々な事業所を活用し、その生活を組み立てていく中で、自然に事業所間の連携や情報共有の重要性は増してくる。今後も引き続き、積極的に地域の事業所との関わりを強めていくという意識を職員一人ひとりが持てるように取り組んでいく必要がある。

2) 個々の利用者のニーズの把握とそれに基づいた事業の再編の検討

- ・個別面談を通して利用者一人ひとりのニーズを把握し、それに基づいた事業の再編を検討していく。

【成果と課題】

前述の通り事業再編が28年度の重要なテーマであり、建物確保などの環境面の整備、利用者への説明、小平市の計画との整合、事業内容の検討、資金計画と必要な事項を整理し計画的に取り組んだ。利用者の理解と同意また小平市の計画との整合がこの事業再編の前提となることから、利用者へは説明会の開催、計画趣意書の発送のうえ、個別面談にて丁寧に状況説明を行い、小平市には制度と利用者の状況について説明を行った。この結果、スムーズに利用者との理解が得られ、在籍50名中17名が生活介護事業所属となり、33名がワークセンター夢の樹に移動し、就労継続支援B型としての活動を継続することとなった。29年度夢の樹みどりは小平第二みどり作業所からの12名、特別支援学校卒業生1名を合わせて30名の生活介護事業所として再スタートする。

建物については、小川町に土地建物を自己所有という形で確保することができた。自己所有の土地建物の確保は法人としての重点目標であり、施設整備積立金の取り崩しと10年償還の融資で資金を調達し、事業再編にあわせて法人の目標も達成できたことになる。これにより長期に安定した事業経営のうえで大きく前進した。

再編後の事業については、小平第二みどり作業所、ワークセンター夢の樹の3事業所合同で各事業所の基本方針、事業実施方法など機能分化を有効に利用者支援に反映させるよう検討を行った。この再編の効果については次年度以降の結果を見る必要があるが、長期的に安定して事業を実施できる体制作りが行えたと考えている。

3) 就労支援

- ・清掃事業の拡大と新規事業開拓による工賃向上を目指していく。

【成果と課題】

マンションを管理している不動産会社と墓石の管理会社の3社に対して、清掃業務の請負について打診を行なったが、こちらの希望に沿う業務がなく清掃事業を増やすことはできなかった。年度後半に小平市より法人で新たに3箇所の児童公園清掃が委託され、内1箇所を夢の樹みどりで請け負った。また、既存の受注先である加藤紙器の受注量を増やしたが、資源回収の回収量が減ったため、就労支援事業収益は前年度比365,897円減の9,05

6, 253円となった。しかし、年度途中で利用者工賃基準の改定を行なったことにより、結果的に月額平均工賃は前年度比214円増の14,774円となった。新規開拓について継続的に実施できず、未達成となった。

8 その他の課題・目標に対する成果と課題

1) 資源回収事業

計画的且つ継続的に新規回収先の開拓を行うことにより、回収量を増加させる。

【成果と課題】

毎日のミーティングや毎月の事業所会議で新規開業先や、回収効率の良い場所について職員間で情報交換し、開拓先一覧表を作成した。この一覧表を元に回収の依頼を行い、新規開拓先目標数10件に対して、9件の開拓ができた。しかし、逆に回収先店舗の閉店などが4件と、新規採用職員が定着しなかった影響から昨年度3名体制から今年度2名体制としたため効率的に回収作業が実施できなかった。結果的に回収量は昨年度から減少となり、収益は昨年度比△146,177円減の6,659,517円となった。

2) 受注事業

多様な作業種を準備し、いろいろな作業の体験を通して可能性の発掘を試みると共に、丁寧な作業指導を行う。

【成果と課題】

常時5～6種類の室内作業を準備し、利用者一人ひとりができるだけ自分にあった作業が選択できるようにした。また、前々年度作成した利用者作業習得一覧表を現状に合わせて見直しを行い、一人ひとりの利用者が携わっている作業種やその工程、作業技術のレベルを項目別に記載し整理し直した。これにより一人ひとりの利用者がどのような作業に取り組み、どのような作業レベルかが把握できるようになり、全職員が連続した指導を行うことができるようになった。さらに、作業マニュアルの活用により繰り返し作業工程や留意点について説明を行なった結果、作業能力の伸長や作業の幅が広がるなど50名中14名に効果が見られた。

9 開所状況

1) 開所期間	自 平成28年4月1日	至 平成29年3月31日
2) 開所日数	(1) 週開所日数	5日間
	(2) 開所時間	午前9時～午後16時
	(3) 年間延開所日数	242日間
	(4) 平均活動時間	7時間

10 利用状況

1) 利用者延人員	10,162人
2) 1日平均利用人員	42.0人
3) 体験実習者延人員	93人
4) 1日平均実習人員	0.4人
5) 実習者実人員	5人

11 利用者状況（平成29年3月31日現在）

1) 年齢

20歳未満	0名
20歳以上30歳未満	24名

30歳以上40歳未満	18名
40歳以上50歳未満	6名
50歳以上60歳未満	0名
60歳以上70歳未満	2名
70歳以上	0名

2) 障害の状況

愛の手帳2度	24名	(内身障手帳所持	2名)
愛の手帳3度	15名	(内身障手帳所持	1名)
愛の手帳4度	11名	(内身障手帳所持	3名)
身体障害者手帳1級	4名	(内愛の手帳所持	4名)
身体障害者手帳3級	1名	(内愛の手帳所持	1名)
身体障害者手帳5級	1名	(内愛の手帳所持	1名)
精神保健手帳2級	2名	(内愛の手帳所持	2名)

3) 通所手段

送迎車利用	20名	(内交通機関併用1名、3名家族送迎と併用)
交通機関利用	13名	(内送迎者利用併用1名)
徒歩等	15名	
家族送迎	6名	(内送迎者利用併用3名)

4) 居住状況

管内居住	42名	管外居住	8名
------	-----	------	----

5) 性別

男性	42名	女性	8名
----	-----	----	----

1.2 利用者工賃

平均工賃	1人	月額	: 14,774円	(前年度	14,560円)
		日給	: 852円	(前年度	860円)
		時給	: 236円	(前年度	235円)

1.3 夕方生活支援実施状況

1) 実施日数	152日
2) 利用者(平成29年3月31日現在)	
(1) 利用者数	35人
(2) 利用者延人数	774人
3) 支援者(平成29年3月31日現在)	
(1) 職員	15人
(2) アルバイト	8人
(3) 職員延人数	224人
(4) アルバイト延人数	267人
4) 内容	
(1) ボウリング	23回
(2) カラオケ	25回
(3) 入浴	21回
(4) プール	18回
(5) 散歩	10回

(6) スポーツ	3回
(7) パソコン	8回
(8) ゲームセンター	10回
(9) ドライブ	21回
(10) スイカ割り	1回
(11) 料理	12回

1.4 生活支援PG実施状況

1) 実施日数	(1) PG実施日数	134日
	(2) 週平均実施日数	2.6日
2) 利用者(平成29年3月31日現在)	(1) 利用者数	6人
	(2) 利用者延人数	441人
3) 支援者(平成29年3月31日現在)	(1) 職員	3人
	(2) アルバイト	13人
	(3) 職員延人数	60人
	(4) アルバイト延人数	358人
4) 内容	(1) ウォーキング	76回
	(2) プール	109回

1.5 環境の整備

定期的に施設内外の清掃を実施し、年間通して清潔な環境を保つことができた。

1.6 防災

災害時避難訓練を年3回実施した。

1.7 その他

福祉サービス第三者評価を受診した。